

地域振興のための方策における環境保全とツーリズム推進の効果

Environmental Conservation in Policy for Regional Development and Effects of Tourism

森 信 之*

MORI Nobuyuki

This paper considers relationships between environmental conservation in policy for regional development and effects of tourism. On the basis of previous studies, it shows two important aspects focusing on processes to make regional development more comprehensive and complex, and effects on regional development. The first is with a focus on environmental conservation and the second is relating to environmental conservation and different domains of regional development. It also considers characteristics of relationships between policy for regional development and environmental conservation based on regional relations focusing on the formation and the realization of such policy, and relationships with natural environment and other regional resources. Finally, this paper considers relationships between environmental conservation in policy for regional development and effects of tourism in each aspect in order to form and realize more effective policy for regional development focusing on effects of tourism.

キーワード：地域振興 (regional development)、環境保全 (environmental conservation)、ツーリズム (tourism)、方策 (policy)

1. はじめに

地域振興のための方策とツーリズム推進の効果との関係については、環境などの特定の領域に関わる指向性をもつ取組みを焦点とすることに関して、それに適合したそうした方策と取組みとの関わりを明確にし、ツーリズム推進の効果に結びつけることが重要になると考えられる。地域振興のための方策と環境保全との関わりに関しては、多様な領域に関わる地域振興において不可欠な総合化、複合化を促すプロセス、それらに関わる取組みと環境保全への指向性をもつ取組みとの関わり、そこでもたらされる地域振興を促す効果に基づいてとらえられる特性が重視され、それらとツーリズム推進の効果との関係を焦点とすることによって、地域振興のためのより有効な方策の構築、具体化につなげることが必要になる。

また、そうした地域振興のための方策と環境保全との関わりについては、対象となる地域、地域資源、あるいは、推進すべき方策、取組み、それらに関わる機能、主体が形成する地域的關係に基づく特性をもっており、そうした点からとらえられる地域振興のための方策、取組みの特性に適合した多様な地域的展開を視野に入れることが重視される。そのため、地域振興のための方策と環境保全との関わりとツーリズム推進の効果との関係に関

しては、そうした関わりがもつ特性を焦点とし、地域的關係に基づくより高い柔軟性がもたらす有効性を軸とすることによって、地域振興、環境保全、ツーリズム推進の相互關係がもたらす効果を中心とする地域振興のためのより有効な仕組みの構築、方策、取組みの推進へと結びつけることが可能になると考えられる。

本稿では、以上の点、また、地域振興のための方策とツーリズムとの関係に関しては、地域的視点に基づくツーリズムがもつ機能に関して軸となる側面と結びついた重視すべきツーリズムの特性、また、ツーリズムの特性と地域振興のための方策との関係、その地域的展開に関して重視すべき論点(森 2016)、地域振興のための方策の推進とツーリズムとの関わりに関する空間的側面に関する論点(森 2017)、また、環境保全と空間再編成との関係に関しては、政策形成や政策に関わる主体の行動、空間再編成の特質と主体との関係(森 2006a)、環境保全とツーリズム推進との関わりに関しては、地域的視点を中心とする政策的側面、計画的側面の重視(森 2011)、環境保全と地域振興との関わりに関しては、それがもつ特性をふまえた方策の方向性、そこにおけるツーリズムに関わる方策(森 2014)といった点をふまえ、まず、地域振興のための方策と環境保全との関わりについて、地域振興における総合化、複合化を促すプロセス、地域振興を促す効果に着目し、推進すべき方策や必要となる取組みに関

*大阪観光大学観光学部

して重視すべき側面を提示し、各々について考察する。次いで、地域振興のための方策と環境保全との関わりの地域的關係に基づく特性、さらに、そうした重視すべき側面各々におけるツーリズム推進の効果との関係について考察する。

2. 地域振興のための方策と環境保全

地域振興のための方策と環境保全との関わりについては、地域振興における総合化、複合化を促すプロセス、地域振興を促す効果に着目し、地域的視点を中心とした環境保全とツーリズム推進との関わりに関して、政策的側面を重視しつつ、地域における環境保全を基盤とする領域や領域間の関係、政策形成、政策推進の局面とその特性をとらえる際に有効な側面(森 2011)、環境保全と地域振興との関わりにおける方策の特性¹⁾、ツーリズムに関わる方策を具体化、構築するための基本となる方向性²⁾(森 2014)をふまえるとともに、ツーリズム推進の効果に結びつけることを視野に入れることによって、推進すべき方策や必要となる取組みに関して重視すべき次の2つの側面が提示される。

第1は、環境保全を中心とする側面であり、環境保全を中心とする取組みの構築、具体化、そこにおける機能間、主体間の関係の形成を焦点とし、地域振興においてより有効なプロセスの進展、関係の形成を促す点が重要となる。ここでの取組みに関しては、自然環境の保全、保護を重視し、地域振興における総合化、複合化を促す機能間、主体間の関係において、自然環境の保全、保護のための核となる取組みとそうした総合化、複合化を促す取組みとが直結することによって地域振興における有効性をより高めることが焦点になると考えられる。

こうした自然環境の保全、保護のための核となる取組みと地域振興における総合化、複合化を促す取組みとの関係においては、各取組みが個々に関係を形成し、それを基に関係の形成を進展させることによってより広範な地域振興を促すことが必要となる。この点に関しては、地域振興を促す効果に関わる地域特性がもつ多様性に基づき、より広範な領域、主体に関わる取組みから形成される関係が総体としての地域振興を促すことを重視した方策、あるいは、相対的に限定された領域、主体に関わる取組みから形成される関係が中心となり、そうした関係からここでの取組みごとに異なったプロセスを促すことによってより広範な地域振興に結びつけることを重視した方策といった異なった性格をもつ方策の推進を図る

ことが重要になるといえる。

また、より広範な領域、主体に関わる取組みから形成される関係に関して、特定の領域、主体に関わる取組みが焦点となり、それとの関係を中心とするそうした関係の形成においては、地域振興において焦点となる取組みにおける機能、主体がもつ特性の重要性を軸としたプロセスの進展を重視し、そうした取組みにおける軸となる機能、主体ごとに見出される関係の形成が促すプロセスによって有効性をより高めることを可能とする方策の推進へと結びつけることが重視される。さらに、そうしたプロセスの進展においては、特定の領域、主体に関わる取組みが地域振興における重要性を増大させ、新たな軸となる関係を形成することによって、地域振興を促す総体としての効果を高めることが可能になると考えられる。

第2は、環境保全と地域振興を促す異なった領域に関わる側面であり、環境保全を中心とする取組みと経済などの地域振興を促す異なった領域に関わる効果をもたらす取組みとの関係に関して、それに基づく地域振興を促すプロセスにおける先導性をもつ取組みの構築、具体化、それらと地域振興における総合化、複合化を促すプロセスとの関わり、そこにおける機能間、主体間の関係の形成を焦点とし、地域振興における先導的なプロセスの進展、関係の形成が地域振興を促す効果を高める点が重要となる。ここでの取組みに関しては、自然環境の保全、保護と地域振興を促す異なった領域に関わる効果をもたらす取組みとの関係において、それらが個々に形成する関係を中心とするプロセスとともに、両者が連携、あるいは、一体化することによって形成される関係を中心とするプロセスに着目する必要がある。

自然環境の保全、保護が形成する関係を中心とするプロセスに関しては、地域振興を促す異なった領域に関わる効果をもたらす取組みとの関係を核とし、自然環境の保全、保護が地域振興における総合化、複合化を促す機能間、主体間の関係を先導的に形成するための取組みが重要となる。特に、自然環境の保全、保護への異なった指向性に関しては、そうした領域に関わる取組みとの関係を多様化させ、それらに応じた取組みを可能とする柔軟性をもつことが不可欠となる。そのため、取組みにおいて対象となる自然環境の特性に基づき、重視すべき領域を中心とする機能、主体が総合的、複合的に地域振興を促すプロセスを方策の推進の軸とすることが必要になると考えられる。

また、異なった領域に関わる取組みが形成する関係を

環境の保全、保護にもたらす効果に着目することを重視し、異なった領域との関係を通じて効果を増大させるための機能、それらを担う主体を核とする地域振興における総合化、複合化を促す取組みが不可欠となる。異なった領域に関わる取組みが自然環境の保全、保護にもたらす効果は、地域振興において不可欠な多様な領域に関わる総体としての関係を視野に入れてとらえる必要がある。そのため、機能間、主体間において核となる機能、主体に関して、核としての機能、主体の特性に適合させつつそうした効果の深化を進展させる関係、また、機能間、主体間において、それらの多様な特性間の関係によって連鎖的に効果を生み出し、高めることを重視した関係、あるいは、効果を広範化させることによって地域振興における総合化、複合化を促すことを中心とする関係といった軸となる異なった関係を焦点とする取組みから構築される方策の推進に結びつけることが重要になると考えられる。

3. 地域的關係に基づく特性

地域振興のための方策と環境保全との関わりをツーリズム推進の効果に結びつけ、それを基に、ツーリズム推進の効果を焦点とするより有効な方策の構築、具体化を図るためには、そうした関わりを地域的關係に基づく特性が、ツーリズム推進の効果を焦点とするより有効な方策の展開につながることに着目することが必要になると考えられる。この点については、そうした地域的關係に基づく特性に関して、地域振興のための方策と環境保全との関わりが、ツーリズム推進を促すことに適合した地域的關係の形成、特性に基づくことを基本とし、ツーリズム推進の効果がそうした方策の有効性をより高めること、また、方策の実践性を重視することに関して、ツーリズム推進のより具体的な地域的展開を視野に入れることが重要になるといえる。

ここでの地域的關係に基づく特性に関しては、それら各々、また、それらの相互関係をふまえることによって、第1に個々の地域における地域振興のための方策における取組みの緊密化、第2に地域振興を促す関係の広域化の進展による取組みの広範化、第3に地域振興を促すための地域間連携を形成するより有効な取組みの狭域化、広域化といった地域的展開各々を方策の構築、具体化を促すための軸とすることが基本として提示されるとともに、それらを相互に関係づけることによって、ツーリズム推進の効果を焦点とする方策の構築、具体化における

有効性を高めることが可能になると考えられる。

また、こうした方策の構築、具体化を促すための軸については、各々に関わる取組みに結びつけることが、次に示す方策の効果に関してさらに重視すべき点につながることになる。すなわち、第1の軸では、取組みにおいて対象となる自然環境、それがもつ広域的な関わりと地域振興のための方策において中心となる取組みとの関係であり、個々の地域における取組みが焦点となることに関して、そうした自然環境と取組みとの関係がもつ地域的な多様性、特に、個々の地域を越える広域的な関わりとそうした取組みとの関係を含めることが重要となる。第2の軸では、取組みにおいて対象となる自然環境の特性に応じた環境保全、自然環境保護のための機能、主体であり、地域振興を促す関係の広域化の進展に適合したより具体的なそれらへの着目が取組みの広範化において重要となる。第3の軸では、取組みにおいて対象となる自然環境がもつ地域的關係に関して、特に、狭域化、広域化といった地域的展開を促す作用をもたらす地域特性と取組みとの関係であり、そうした自然環境自体と個々の取組み、それらの相互関係がもつ地域特性との関係を重視することによって、地域振興を促すための地域間連携の形成における取組みの地域的展開を促す作用に基づく有効性をより高めることが重要となる。

また、取組みにおいて対象となる自然環境については、歴史的、文化的資源といった環境保全において一体化させとらえることが必要な地域資源との関係に着目することが不可欠となる。ここでは、自然環境とそうした地域資源との関係において、自然環境と個々の地域資源との間で形成される関係が地域振興のための方策と環境保全との関わりにおける軸となり、地域振興を促すプロセスにおいてそれら各々が焦点となる方策、あるいは、自然環境とそうした地域資源間で形成される関係に基づく地域資源の複合化との関係が軸となり、地域振興を促すプロセスにおいてそれらが形成する相互関係が焦点となる方策といった異なった関係の特性に着目した方策が必要になると考えられる。

さらに、地域振興のための方策と環境保全との関わりについては、取組みにおいて対象となる自然環境、それらとの関わりをもつ地域資源の保全と利用との関係に着目する必要があり、異なった関係に応じた方策の構築、具体化に結びつけることが不可欠となる。ここでは、保全を基盤とする両者間の関係を形成すること、保全からの関係の形成において利用を包含する関係の展開を促すこと、利用からの関係の形成において保全と連携した関

係の展開を促すこと、利用と一体化、直結した保全を中心とする関係を形成することといった異なった特性が重視されることになる。

4. ツーリズム推進の効果との関係

以上をふまえ、地域振興のための方策と環境保全との関わりを基に、ツーリズム推進の効果との関係に着目することによって、ツーリズム推進の効果を中心とするより有効な方策の構築、具体化へと結びつけることが必要となる。そのためには、先の地域振興における総合化、複合化を促すプロセス、地域振興を促す効果への着目に基づく、推進すべき方策や必要となる取組みに関して重視すべき2つの側面、地域振興のための方策と環境保全との関わりを基に、ツーリズム推進の効果を中心とするより有効な方策の構築、具体化を可能とする関係を焦点とすることが不可欠になると考えられる³⁾。

特に、地域振興のための方策と環境保全との関わりに関して重視すべき側面と方策の構築、具体化を促すための軸との関係については、環境保全を中心とする取組み、それらと地域振興を促す異なった領域に関わる効果をもたらす取組みとの関係、方策の構築、具体化を促すための軸各々、それらの相互関係との間で形成される関係に関して、ツーリズム推進の効果を中心とすることによって有効となる特性を基に、地域的展開を中心とする方策の構築、具体化を可能とすることが重要となる。さらに、焦点となるツーリズム推進において重視される地域資源の特性、地域資源の保全と利用との関係を視野に入れることによって、ツーリズム推進を焦点とする地域振興のための方策の特性の具体化を図り、そうした方策の有効性を高めるための取組みの明確化につなげることが不可欠になると考えられる。

これらについて、三重県における取組みをみると、まず、「三重まるごと自然体験」では、自然資源を活用した自然体験に関して、北勢、伊賀、中南勢、伊勢志摩、東紀州の5つの「エリア」ごとの特性、それらにおける各地域の特性に応じた特色をもたせつつさまざまな「活動団体」が取組みを行っており、森(2004, 2005, 2006b, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2014, 2015, 2016, 2017)で取り上げ

た東紀州地域における取組みについて表-1に示している。また、全域が伊勢志摩国立公園に指定されている鳥羽市では、「第五次鳥羽市総合計画後期基本計画」に基づく取組みが行われており、「観光交流」について表-2に示している⁴⁾。さらに、「伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン」⁵⁾では、「観光の振興」(表-3)は、「生活機能の強化に係る政策分野」における「産業振興」に「商工業の振興」、「農林漁業の振興」とともに含まれている。これらに関しては、環境保全、自然環境保護とツーリズムとの直結、また、まちづくりや地域振興とともに国立公園における自然環境の保全、利用とツーリズムとの一体化、あるいは、地域振興に関わる定住自立圏といった個別の自治体を越える圏域がもつ特性、それらに基づく取組み、自然環境とともに歴史、文化などのより広範な領域に関わる地域資源とツーリズムとの関係などの多様な関わりをもつ取組みの特性に着目したツーリズム推進の効果が重要になると考えられる。

こうした点、また、地域的視点を中心とした環境保全とツーリズム推進との関わりに関して、計画的側面を重視しつつ、環境保全を基盤とした場合の計画推進の方策や効果において軸となる側面をもたらす展開の有効性(森2011)、環境保全と地域振興との関わりにおけるツーリズムに関わる方策の具体化、実践への展開(森2014)をふまえ、推進すべき方策や必要となる取組みに関して重視すべき2つの側面ごとに、ツーリズム推進の効果との関係に基づく、ツーリズム推進の効果を中心とする地域振興のためのより有効な方策の構築、具体化への展開を図ることが可能になると考えられる⁶⁾。

(1) 環境保全を中心とする側面

この側面については、自然環境の保全、保護のための核となる取組みと地域振興における総合化、複合化を促す取組みとが直結する関係とツーリズム推進の効果との関係に着目する必要がある。まず、より広範な領域、主体に関わる取組みから形成される関係が総体としての地域振興を促すことを重視した方策に関しては、個々の地域における環境保全のための核となる取組みを中心とする地域振興のための方策における取組みの緊密化に関わるツーリズム推進の効果が焦点となる。より広範な領域、主体に関わる取組みから形成される関係が地域振興を促すという点からとらえられるより有効な取組みの広域化では、環境保全のための核となる取組みを先導するツーリズムに関して、環境保全への指向性をもつ機能に基づく特性とともに地域振興のための方策における取組みの緊密化において中心となる機能に基づく特性が重視され

表-1 東紀州地域における「三重まるごと自然体験ネットワーク参加団体一覧」(2017年3月1日現在)

市町名	活動団体名、主な自然体験メニュー等
尾鷲市	コテージ・ウッドベック [夜景・夜明け登山ツアー、尾鷲産業遺産をめぐる山歩き、わらじで古道を歩こうなど]、くまの体験企画 [熊野古道伊勢路などにおける個人向け貸切りエコツアー、地域資源の発掘保全イベント(紀伊半島みる観る探検隊)、旅行会社の企画協力やガイド派遣など]、協同組合 尾鷲観光物産協会 [教育旅行・個人・団体のツアーを含め、尾鷲をまるごと体験]、外遊びぷろじェくと!! [三重県南部を中心に海・山・川での外遊びを中心とした活動を展開、民間の集いグループ]、NPO 法人天満浦百人会(天満荘) [天満荘を基点に2つのウォーキングコースを設定、甘夏みかん狩りやセミとり等]、東紀州コミュニティデザイン [東紀州地域の自然を使った事業やイベント]、梶賀まちおこしの会 [梶賀のあぶりの生産体験]
紀北町	きほくふるさと体験塾 [世界遺産熊野古道や清流銚子川など、町内の海・川・山のフィールドで様々な自然体験活動を実施]、紀北町観光協会 [世界遺産熊野古道や清流銚子川など、町内の海・川・山のフィールドで様々な自然体験活動を実施]、シーカヤックステーション 小山ハウス [自分旅サポートシステム(シーカヤック、サイクリング、ハイキング等を使った複合アクティビティのガイドツアー事業)、寺子屋事業(子供屋外体験生活塾)]、NPO 法人ふるさと企画舎(キャンプ inn 海山) [銚子川流域での夜空観察会、アマゴつかみどり、ホテル観察会、カナディアンカヌーツーリング、クラフト体験など]、島勝浦体験型イベント交流施設いちゅう [紀北町島勝浦での魚見小屋トレッキング、磯の生物観察、船越海岸でビーチコーミング等]、孫太郎オートキャンプ(紀伊長島レクリエーション都市開発株式会社) [キャンプ場、釣り、磯遊び、シーカヤックなどの体験]
熊野市	三ツ口の里山を守る会(農家民泊 やまもと) [山歩き、林内散策、ハチミツの甘茶・椿油・椎茸づくり、山菜の育成・採取]、熊野市観光協会 [パラグライダー、川舟体験、カヌー、サイクリング大会、丹倉他トレッキング、マリンスポーツ、キャニオニング・シャワークライミング・ラフティングツアー]、熊野市観光公社(熊野少年自然の家) [ハイキングコースなど施設周辺を活用した自然体験]、里創人 熊野倶楽部 [熊野古道ツアー、熊野川三反帆、キャニオニング、ラフティング、海釣り、川エビとり、昆虫採集、パラグライダー、シーカヤック&シュノーケリングなど]、金山パイロットファーム観光農園・直売所くまのParadise [みかん狩り、ブルーベリー狩り、ストレートジュース「くまのそだち」他みかんの加工品・販売]、童集乃村 山里民泊あかくら [体験民泊、薪風呂体験、あまごつかみ]、一般社団法人 熊野レストレーション [里山林の保全、森林レクリエーション(ツリーイングなど)、体験農場(飛鳥熊レス村)、熊野古道伊勢路の景観保全]、熊野マリンスポーツ推進委員会 [新鹿海水浴場において、SUP(スタンドアップパドルボード)やシーカヤックなどネイチャーツアー、SUP マラソン・シーカヤックマラソンなどイベント開催]、株式会社熊野支障木伐採サービス [木登り等の自然体験]、ツリーイングみえ [ツリーイング]
紀宝町	道の駅 紀宝町ウミガメ公園 [ウミガメプール無料観覧]、奥熊野ガイドコミュニティkumateng [奥熊野エリアのアウトドア体験]

注) [] 内に「主な自然体験メニュー等」を記載。

出典：三重県資料により作成。

ることになる。

こうした特性は、総体としての地域振興を促すプロセスにおいて、取組みにおいて対象となる自然環境が形成する異なった地域的關係、地域資源間の關係に基づき、自然環境の保全、保護を柱とする方策、自然環境を中心としつつ異なった領域に関わる地域資源間の關係の一体化を柱とする方策といった推進すべき方策の多様性をも

たらずことになる。そのため、地域振興を促す關係の広域化の進展に伴うそうした關係の形成、変化に適合した取組みの広範化に応じたより有効なツーリズム推進を視野に入れることが必要になるといえる。また、地域振興における総合化、複合化との關係に関しては、取組みの緊密化、広範化において環境保全のための取組みの有効性と一体化したツーリズム推進の効果が、多様な領域に

表-2 「第五次鳥羽市総合計画後期基本計画」における「観光交流」

<p>1. まちづくりの目標(政策目標)</p> <p>【観光交流】</p> <p>自然の恵みと出会う感動をわかちあおう</p> <p>2. 施策イメージ(施策目標)</p> <p>(1) 海洋文化都市としての資源に磨きをかける</p> <p>〔市民とともにめざすまちの姿(目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地としてのブランド力・魅力が高くなり、全国各地から多くの観光客が訪れ、再来訪者が増えている。 ・観光関係団体、観光事業者、宿泊事業者、漁業者、農業者、市民、行政が共通の認識の下、連携した観光振興が図られている。 ・地域固有の環境(自然・文化など)資源の活用とそれらの保護が両立され、経済や人のつながりが循環し、持続可能な魅力創出が行われている。 <p>〔施策の展開〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の保全活用と受け皿づくり ・食の魅力の充実 ・景観・環境の整備 ・鳥羽の魅力の情報発信 ・新たな島旅の推進 ・鳥羽うみ文化のネットワーク化 ・漁業と観光の連携促進 ・多様な観光関係者との連携 <p>(2) まちの美しさや機能に磨きをかける</p> <p>〔市民とともにめざすまちの姿(目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥羽港佐田浜地区・鳥羽駅から鳥羽1~4丁目、鳥羽水族館・ミキモト真珠島へ快適に周回できるようになっている。 ・離島や南鳥羽への周遊が充実している。 ・鳥羽駅及び佐田浜周辺の駐車場の利用促進が図られ、観光客に利用されやすくなっている。 ・統一感のあるまちなみが形成されている。 <p>〔施策の展開〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光基盤の整備 ・鳥羽観光の玄関口にふさわしい歓迎空間づくり ・観光案内の充実 ・パールロード沿線の景観整備 ・二次交通の充実 <p>(3) おもてなしの心を育み、鳥羽の魅力を発信する</p> <p>〔市民とともにめざすまちの姿(目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の魅力が国内外へ十分に伝わり、旅行商品の品揃えが多く、来訪者が感動と幸せを感じ、何度も訪れたいとなっている。 <p>〔施策の展開〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊産業の活性化 ・旅行商品・プロモーションの充実 ・円滑な道路通行条件の整備 ・おもてなし・人材育成 ・観光ガイドの拡充 ・インバウンド対策
--

出典：鳥羽市企画財政課編(2016)により作成。

関わる取組みとの相互関係において、地域資源の利用を伴う活動との関わりを多様化させることになり、総合化、複合化のプロセスにおいて、ツーリズム推進の効果に基づく異なった主体間、地域資源間の関係の形成に応じた地域振興のための方策の推進が必要になると考えられる。

また、相対的に限定された領域、主体に関わる取組みから形成される関係が中心となり、そうした関係からここの取組みごとに異なったプロセスを促すことによ

てより広範な地域振興に結びつけることを重視した方策に関しては、個々の地域における環境保全のための取組みを中心とするそうした異なったプロセスをもつ取組みの緊密化、広範化に関わるツーリズム推進の効果が焦点となる。取組みごとに異なったプロセスを促すことによるより有効な取組みの広域化、広範化では、環境保全のための核となる取組み、相対的に限定された領域、主体に関わる取組み双方に効果をもたらす中核的な機能に基

づくツーリズムの特性に着目することが重視される。特に、領域、主体に関するここでの特性は、両者間において、領域、主体に関するここでの特性は、両者間において、領域性を基盤とするプロセスといった異なったプロセスごとの取組みを重視し、地域振興を促すための地域間連携

表-3 「伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン」における「観光の振興」

<p>[定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組]</p> <p>生活機能の強化に係る政策分野 - 産業振興 - 観光の振興</p> <p>①取組事項 伊勢志摩地域への旅客誘致</p> <p>(現状と課題)</p> <p>地域間で連携し、伊勢志摩地域の誘客宣伝・誘致活動を行うことにより伊勢志摩地域を活性化する。</p> <p>(事業の概要)</p> <p>伊勢志摩地域の情報発信、修学旅行等の誘致、伊勢志摩キャンペーン（伊勢神話への旅）の実施、伊勢志摩観光振興プランの策定等、伊勢志摩地域への旅客誘致を図る。</p> <p>②取組事項 伊勢熊野地域への旅客誘致</p> <p>(現状と課題)</p> <p>歴史的に参拝客を魅了してきた伊勢・熊野地域で協力して宣伝事業に取り組んでいるところであるが、平成 25 年の「伊勢神宮式年遷宮」と平成 26 年の「熊野古道世界遺産登録 10 周年」を核とした情報発信を行い、更なる伊勢熊野地域への旅客誘致に取り組む必要がある。</p> <p>(事業の概要)</p> <p>お伊勢参りと熊野詣でを目的とした旅客の誘致を行い、関係団体間の相互の情報交換及び情報発信に取り組む。</p> <p>③取組事項 伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興</p> <p>(現状と課題)</p> <p>一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会に加盟し、情報発信、自然観察、清掃活動などを実施している。伊勢志摩サミット開催の効果もあり、自然観察を行う観光客が増加している。国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく「国立公園満喫プロジェクト」が平成 28 年度より開始され、先行的に取り組む全国 8 箇所の国立公園の一つに伊勢志摩国立公園が選定された。これより老朽化が進んでいる施設などを順次整備していく。伊勢志摩国立公園は市町をまたいでいることから、関係市町と連携を図りながら進めていく必要がある。</p> <p>(事業の概要)</p> <p>調査研究、保護維持、開発改善、紹介宣伝、目的を同じくする他団体との情報共有の他、自然ふれあい活動の推進・普及啓発、自然情報の収集・提供、調査研究、地域交流、美化清掃、横山ビジターセンターの管理運営等に取り組む。また、国立公園満喫プロジェクトの開始に伴い、地域協議会で作成した「ステップアッププログラム 2020」の達成に必要な活動に取り組む。</p>
--

出典：伊勢市情報戦略局企画調整課編(2017)により作成。

て相乗的な効果を生み出し、高めることによって相互に異なったより特徴的なプロセスの進展を可能とし、ツーリズム推進に関してもそれらに応じた多様な効果をもたらすことになるといえる。

ここでの地域関係については、領域、主体に関して、環境保全を中心とする地域資源間の関係において焦点となる特性の重要性が増し、それらに基づく地域関係における柔軟性をもつことが必要となる。そのため、地域資源の特性に応じた局地的な近接性を基盤とするプロセス、あるいは、より広範な地域振興を指向する多様な広

の形成を視野に入れることによって、有効な取組みの地域的展開における中核的な機能を軸とするツーリズム推進が地域振興のための方策において不可欠になるといえる。この点は、地域振興における総合化、複合化との関係において、そうしたツーリズム推進が必要とする地域的関係の柔軟性に基づき、特定の地域関係を中心とする地域振興のための方策を重視することにつながる。したがって、地域資源の利用を伴う活動に関しては、環境保全、自然環境保護との関係において、特定の地域資源の利用を焦点とした方策の推進が不可欠となり、ツーリ

ズム推進の効果を軸とするそうした地域資源の特性に応じたより有効な方策の構築、具体化が重要になると考えられる。

特定の領域、主体に関わる取組みを焦点とするより広範な領域、主体に関わる取組みから形成される関係については、個々の地域における環境保全のための取組みと地域振興において焦点となる取組みとの関係を中心とする取組みの緊密化、広範化に関わるツーリズム推進の効果が焦点となる。ここでは、環境保全のための取組みと地域振興において焦点となる取組みを中心とする特定の領域、主体に関わるそうした取組みとの関係の特性に応じたツーリズム推進の効果に着目する必要がある。この点は、地域振興において焦点となる取組みがもつ機能、それを担う主体の特性と直結しており、したがって、それらの重要性を軸としたプロセスの進展がツーリズム推進の効果と連関することによってより有効となる方策、また、そうした重要性の増大による新たな軸となる関係の形成がツーリズム推進との関係を中心に地域振興を促す総体としての効果を高めるための方策の推進が重要になると考えられる。

特定の領域、主体に関わる取組みから形成される地域的關係は、先の相対的に限定された領域、主体に関わる取組みに基づく特性の重要性をさらに増大させ、それに応じたより錯綜した地域振興を促すための地域間連携の柔軟性を必要とすることになる。この点に関しては、先の地域資源の特性に応じた局地的な近接性、あるいは、より広範な地域振興を指向する多様な地域的展開といった地域振興を促すプロセスの基盤の広範化、地域的な観点に基づく多様化を一層進展させることになるが、特定の領域、主体の重要性の増大は、環境保全、地域振興のための方策、ツーリズム推進各々において焦点となる地域資源、また、取組み、機能、主体がもつ特性がそうしたプロセスにもたらす基盤としての作用を強めることになる。そのため、地域的關係に関わる狭域化、広域化といった地域的展開におけるより多様な特定の指向性に応じた方策が必要となり、そうした方策におけるツーリズム推進のより多様な効果に着目し、方策の構築、具体化に結びつけることが重要になると考えられる。

(2) 環境保全と地域振興を促す異なった領域に関わる側面

この側面については、環境保全を中心とする取組みと地域振興を促す異なった領域に関わる効果をもたらす取組みとの個々の関係、また、両者が連携、あるいは、一体化することによって形成される関係を中心とする地域

振興における先導的なプロセスに着目する必要がある。取組みにおいて対象となる地域資源の一体化、複合化、また、保全と利用との関係の多様化、広範化との関係をふまえて、まず、自然環境の保全、保護が形成する関係を中心とするプロセスに関して、自然環境の保全、保護のための取組みと地域振興を促す異なった領域に関わる効果をもたらす取組みとの関係を核とし、地域振興における総合化、複合化をもたらす関係を先導的に形成するための取組みに関わるツーリズム推進の効果が焦点となる。自然環境の保全、保護への異なった指向性に基づく効果をもたらす取組みとの関係の多様化に関しては、自然環境の保全、保護への異なった指向性に適合したツーリズム推進が重要となり、各々において必要となる機能、主体を中心とするツーリズム推進に関して重視すべき特性を具体化することが不可欠となる。

また、それらと異なった領域に関わる効果をもたらす取組みとの関係に関しては、ツーリズム推進、そうした取組み各々に関して重視すべき特性に基づく異なった有効性を生み出し、高めることが必要となり、両者が連動することを可能とするツーリズム推進の効果を焦点とする取組みが重要になると考えられる。そのため、ここでの取組みでは、ツーリズム推進、異なった領域に関わる効果をもたらす取組み各々において中心となる機能、主体、また、それらの連携、一体化に関して、取組みにおいて対象となる自然環境の特性に基づくとともに、そうした異なった有効性に応じた柔軟性をもつことを不可欠とし、したがって、総合的、複合的な地域振興を促すプロセスに関しても、ツーリズム推進と地域振興のあり方との関係に基づく異なったプロセスを促す方策の軸が必要になるといえる。

ここでの地域的關係については、個々の地域における自然環境の保全、保護が先導的に形成する取組みの緊密化に関して、自然環境の保全、保護への異なった指向性に基づく多様な領域に関わる効果をもたらす取組みとの関係に応じた有効性が必要となる。そのため、そうした関係を核とすることによって、ツーリズム推進との関係を含めて、それらに関わる機能、主体がより広域的な関わりとの関係を必要とすることになるといえる。また、そうした関係は、地域振興を促す関係の広域化の進展が異なった領域に関わる効果をもたらすことを中心とする広範化を促す、それとツーリズム推進に関して重視すべき特性との関係に基づく取組みのより多様な広範化の有効性を高める、さらには、地域振興を促すための地域間連携の形成においては、そこで中心となる機能間、主体

間の相互関係に基づく多様な特性をもつ地域間連携に適合した取組みの異なった地域的展開の有効性を高めることとなり、それらに寄与するツーリズム推進の効果を焦点とする方策が不可欠になると考えられる。

地域振興を促す異なった領域に関わる効果をもたらす取組みが形成する関係を中心とするプロセスに関しては、まず、そうした取組みが自然環境の保全、保護を重視した効果をもたらすための機能、主体とツーリズム推進において中心となる機能、主体との関係において、地域振興における総合化、複合化を促すために有効な機能間、主体間の相互関係を焦点とし、それらの形成が促す地域振興において先導的なプロセスに関わるツーリズム推進の効果が焦点となる。そうした効果と異なった領域に関わる効果との関係に関しては、自然環境の保全、保護を重視した効果と地域振興を促す効果を相乗的に高めることを必要とし、ツーリズム推進が自然環境の保全、保護のための取組みと異なった領域に関わる効果をもたらす取組みとの相互関係において地域振興を促す効果に先導的な関わりをもつことが不可欠になると考えられる。

そのため、そうした相互関係において核となる機能、主体に関しては、自然環境の特性に適合した保全、保護、また、異なった領域各々、それらの相互関係において軸となる取組みを基に、自然環境の保全、保護への指向性、環境保全を中心とする異なった領域に関わる関係がもつ指向性、異なった領域各々、それらの相互関係を基盤とする指向性といった多様な指向性に応じたツーリズム推進を促すことが必要になる。したがって、そこで焦点となるツーリズム推進に関しては、特定の領域各々、領域間の相互関係、それらの組み合わせに着目し、それらを基に、ツーリズム推進を焦点とする取組み、環境保全とツーリズム推進とが連携、一体化した取組み、それらが地域振興の総合化、複合化に寄与することを焦点とする取組みを重視することによって、地域振興を促す効果をより高めるための方策の推進に結びつけることが不可欠になると考えられる。

ここでの地域的關係については、個々の地域における取組みに関して、地域振興を促す異なった領域に関わる効果をもたらす取組みが形成する関係を中心とする緊密化が、自然環境の保全、保護、また、地域振興における総合化、複合化と一体化した地域振興を促す効果を高めることが重視され、そこにおいて有効な機能、主体を焦点とする地域的關係が重要になるといえる。特に、異なった領域に関わる効果に関しては、個々の地域における取組みの緊密化の広域的な関わりをより重視することが

必要となるため、地域振興を促す効果をもたらす関係と結びついた取組みの広範化、地域振興を促す地域間連携を形成する取組みのより多様な空間スケール、相互に異なった地域的關係の特性との関わりをもつ地域的展開を視野に入れ、そこで地域振興を先導的に促すためのより多様な軸となる関係を見出すことが不可欠になるといえる。

この点に関しては、特定の特性に基づく連関関係をもつ取組みにおける多様な空間的な指向性を重視することによって、各々の特定の特性間の関係を軸とし、それらに適合した柔軟な地域的關係を通じて地域振興を促す効果を波及的にもたらす取組み、また、多様な特性の相互関係において焦点となる特性がもつ指向性を重視することによって、焦点となる特性ごとの地域的關係を軸とし、各々の地域的な観点からの有効性に基づく地域振興を促す効果を焦点とする取組み、さらには、地域振興を促す効果の広範化に関して、特性間、地域間で形成される錯綜した関係における核となる機能、主体がもつ特定の指向性を重視することによって、そうした関係と地域振興における総合化、複合化とを直結させることが地域振興を促す効果をより高めることを焦点とする取組み各々に着目することが、より有効な方策の構築、具体化において重要になると考えられる。

5. おわりに

本稿では、まず、地域振興のための方策と環境保全との関わりについて、地域振興における総合化、複合化を促すプロセス、地域振興を促す効果に着目し、環境保全を中心とする側面、環境保全と地域振興を促す異なった領域に関わる側面という推進すべき方策や必要となる取組みに関して重視すべき2つの側面を提示し、各々について考察した。次いで、地域振興のための方策と環境保全との関わりを地域的關係に基づく特性に関して、方策の構築、具体化を促すための3つの軸を提示するとともに、取組みにおいて対象となる自然環境と多様な領域に関わる地域資源との関係、また、そうした自然環境、多様な領域に関わる地域資源の保全と利用との関係に着目し、各々について考察した。

さらに、ツーリズム推進の効果を焦点とする地域振興のためのより有効な方策の構築、具体化への展開を図るため、先の推進すべき方策や必要となる取組みに関して重視すべき2つの側面各々におけるツーリズム推進の効果との関係について考察した。

以上をふまえ、今後は、地域特性に基づき、環境保全への指向性をより多様化させるとともに、異なった領域に関わる指向性を広範化させ、各々に応じた取組みの具体化を促すことによって、ツーリズム推進の効果を焦点とする地域振興のためのより有効な方策の構築、具体化につなげるものが課題となる。

【注】

- 1)第1に、環境保全を基盤とする対象となる地域において、環境保全への指向性が相対的に強い傾向を示す取組み、第2に、地域振興における環境保全以外の内容への指向性が相対的に強い傾向を示す取組み、第3に、環境保全と地域振興との関わりがもたらす複合的な指向性が相対的に強い傾向を示す取組み各々の重要性によって規定される特性である。
- 2)第1に、環境保全への相対的に強い指向性を示す取組みが、地域振興への指向性の増大とともに、地域振興の内容をより広範化させ、環境保全から地域経済振興などの地域振興において重要な柱となる内容の増大、各々の内容の広範化を促す方向性、第2に、環境保全への相対的に強い指向性を示す取組みが、より広範な地域振興への指向性の増大へと結びついていくプロセスが、地域的な観点から、当初の取組みの焦点となる地域から広域的に進展し、地域経済振興などの重要な柱となる内容の増大を伴う地域振興への指向性がさらに広域的な範囲に及ぶことを視野に入れる必要性をもたらす方向性、第3に、地域経済振興などの地域振興における重要な柱を含む複合的な地域振興への指向性を示す取組みにおいて、環境保全への指向性が相対的に強い取組みと、それらと地域振興との相互関係のなかでの指向性を示す取組みとの間で、一体化、連携を促す関係を形成し、より広範で広域的な展開においてそれらが核となる作用をもたらす方向性である。
- 3)こうした点については、持続可能なツーリズムの意味の変化、リフレーミング、空間を含む持続可能性のスケールなどに関して重視すべき問題(McCool 2016a)、保護地域における持続可能なツーリズム、持続可能なツーリズム政策とほかの政策の共進化へのアプローチ(Mellon and Bramwell 2016)、保護地域と地域開発との結びつき、保護地域における持続可能な地域開発(Hammer 2007)といった持続可能なツーリズム、環境保全、自然環境保護を焦点とする地域特性、これらに関わる政策に関する論点を視野に入れる必要がある。
- 4)2016年度から2020年度までの計画である。なお、鳥羽市に関しては、2015年に「第2次鳥羽市観光基本計画」(2016年度～2025年度)、「第2次鳥羽市観光基本計画 前期アクションプログラム」(2016年度～2018年度)が策定され、また、2014年にエコツーリズム推進法に基づく「鳥羽エコツーリズム

ム推進全体構想」(鳥羽市エコツーリズム推進協議会)が認定されている(2017年に「鳥羽エコツーリズム推進全体構想(第2版)」が出されている)。

- 5)圏域を形成する市町は、伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町である。期間は2014年度から2018年度までであり、毎年度所要の変更を行うことになっている。
- 6)ここでは、ROS(Recreation Opportunity Spectrum)のツーリズムへの適用、TOS(Tourism Opportunity Spectrum)の特性、有効性、問題点(Dawson 2001)、それらをふまえた保護地域におけるレクリエーション、ツーリズムのための計画のフレームワークの重要性、有用性、また、実行のために必要な条件(McCool 2016b)、包括的にとらえた多様なコミュニティ・キャピタルの相互関係、また、保護地域、ツーリズム、コミュニティの生活のリネージュ(Stone and Nyaupane 2016)、コミュニティが保護地域と結びついたツーリズム計画に効果的に参画するためのフレームワーク(Bello et al. 2016)などの推進すべきツーリズムの特性、それらと地域やコミュニティ、ツーリズムを焦点とする計画との関係に関わる論点をふまえる必要がある。

【文献】

- 伊勢市情報戦略局企画調整課編(2017):『伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン』(平成26年6月16日策定、平成27年6月11日第1回変更、平成28年6月30日第2回変更、平成29年6月30日第3回変更、平成29年10月17日第4回変更)(<http://www.city.ise.mie.jp/secure/44734/dai4kaikyouseibizyon.pdf>、2018年3月12日閲覧)。
- 鳥羽市企画財政課編(2016):『第五次鳥羽市総合計画後期基本計画』(https://www.city.toba.mie.jp/kikaku/dai5jikeikaku/kouki_kihonkeikaku/documents/koukikihonkeikaku.pdf、2018年3月12日閲覧)。
- 森信之(2004): 地域発展のための地域的条件 - ツーリズムと地域経済に基づく論点 -、『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報) 3: 13-27.
- 森信之(2005): 地域変化と計画システムの再構築 - 地域経済構造とツーリズムを中心とする考察 -、『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報) 4: 33-50.
- 森信之(2006a): 環境保全をめぐる空間再編成、大阪明浄大学紀要 6: 69-76.
- 森信之(2006b): 地域振興の構造 - 空間とツーリズムに基づく視点 -、『観光研究論集』(大阪観光大学観光学研究所年報) 5: 113-126.
- 森信之(2008): 地域振興のメカニズムと計画、『大阪観光大学紀要』 8: 47-53.

- 森信之(2009): 地域振興におけるツーリズム推進の空間特性、
『大阪観光大学紀要』9: 33-39.
- 森信之(2010): 地域振興とツーリズムに関わる計画推進、『大
阪観光大学紀要』10: 167-178.
- 森信之(2011): 環境保全とツーリズム推進 - 地域的視点を中心
に -、『大阪観光大学紀要』11: 93-100.
- 森信之(2012): 地域振興と地域的關係 - ツーリズム推進を中
心とする考察 -、『大阪観光大学紀要』12: 87-94.
- 森信之(2013): 地域振興のための政策推進とツーリズム、『大
阪観光大学紀要』13: 101-108.
- 森信之(2014): 環境保全と地域振興 - ツーリズムに関わる方
策に着目して -、『大阪観光大学紀要』14: 91-100.
- 森信之(2015): 地域振興におけるツーリズム推進のための方策
- 地域経済に関わる論点 -、『大阪観光大学紀要』15: 63-70.
- 森信之(2016): 地域振興のための方策におけるツーリズムの
特性 - 地域的視点に基づく論点 -、『大阪観光大学紀要』16:
55-63.
- 森信之(2017): 地域振興のための方策の推進とツーリズム -
空間的側面に関わる論点 -、『大阪観光大学紀要』17: 53-60.
- Bello, F. G, Carr, N. and Lovelock, B. (2016): "Community
participation framework for protected area-based tourism
planning", *Tourism Planning & Development*, 13: 469-485.
- Dawson, C. P. (2001): "Ecotourism and nature-based tourism: one end
of the tourism opportunity spectrum?", In McCool, S. F. and
Moisey, R. N. eds. *Tourism, recreation and sustainability: linking
culture and the environment*, CABI Publishing: 41-53.
- Hammer, T. (2007): "Protected areas and regional development:
conflicts and opportunities", In Mose, I. eds. *Protected areas and
regional development in Europe: towards a new model for the
21st century*, Ashgate: 21-36.
- McCool, S. F. (2016a): "The changing meanings of sustainable
tourism", In McCool, S. F. and Bosak, K. eds. *Reframing
sustainable tourism*, Springer: 13-32.
- McCool, S. F. (2016b): "Tourism in protected areas: frameworks for
working through the challenges in an era of change, complexity
and uncertainty", In McCool, S. F. and Bosak, K. eds. *Reframing
sustainable tourism*, Springer: 101-117.
- Melon, V. and Bramwell, B. (2016): "Protected area policies and
sustainable tourism: influences, relationships and co-evolution",
Journal of Sustainable Tourism, 24: 1369-1386.
- Stone, M. T. and Nyaupane, G. P. (2016): "Protected areas, tourism
and community livelihoods linkages: a comprehensive analysis
approach", *Journal of Sustainable Tourism*, 24: 673-693.